

□医師会関係の施設紹介

特別養護老人ホームようよう

社会福祉法人地域福祉会 理事長 幕内 幹男



社会福祉法人地域福祉会 『特別養護老人ホームようよう』は、医療法人幕内会における山王台病院をはじめ、その他施設を加えた山王台メディカル・タウン構想の集大成としてH24年5月に誕生し、すでに5年が経ちました。

私共は山王台病院を持って地域の急性期医療を担当しておりますが、高齢患者の増加により、急性期医療においても介護の必要性が極めて重要であることを痛感しております。

したがって、運営理念は、第一に医療との協力による質の高い介護の提供。第二に社会を担ってきた高齢者への尊敬の念を持った介護を行うことです。老化“aging”は生きるものの宿命であり、その変化を心地よく、豊かなものとしなければなりません。したがって”anti aging”ではなく、“comfortable aging”さらに“wealthy aging”を過ごして頂くことを目標とし、また、幕内会の医療・介護資源を共有し、レクレーションセラピーとして共通のイベントなどを催し、経済的にも無駄のない技術の高い介護を提供できるよう努力しております。

施設の特徴としては、全室個室で10名ずつの6ユニットケアで、それぞれのネーミングは、入所する高齢者に馴染みが深い地域の方言や光景などが浮かんでくるものとししました。

現在の生活の様子は

・筑波おろし

ショートステイユニットで、ADLの高い利用者様が比較的多く、家庭の延長線上で職員と一緒に暮らす雰囲気大切にしている。





・みいこの螢

職員と共に掃除、洗濯物干しを手伝って下さる入居者様がいらっしゃる。また、お互いの助け合いの場面も見られ、アットホームなユニット。

・恋瀬の稲穂

和室の小上がりと堀こたつがある唯一のユニット。平均介護度4.0と高いが、洗濯物たたみを手伝って下さる方から、食事介助が必要な方とADLの幅が広いのが特徴。

・杜の木漏れ日

個性のある入居者様が多い。カラオケのスケジュールをたてて各ユニットへ歌いに行く入居者様や、生活の手伝いを積極的にして下さる方がいらっしゃる。

・桃浦のカッパ

平均介護度4.3と高い為、医療連携が多いユニット。しかし、一方では入居者様同士の会話が弾んだり、読書、新聞を読んだり、相撲観戦を楽しむなど横の繋がりが強いのが特徴。

・晩景のぬくもり

入居者様、職員共に女性だけのユニットです。感情豊かな入居者様が多く、洗い物、洗濯干し、洗濯たたみを手伝って頂いております。また、季節感を多く取り入れたレクレーションに心がけている。

環境面では、自宅での生活により近い雰囲気 of 居室やキッチン配し、一方で南仏をイメージしたホールやアトリウム、またオープンキッチン、陶板の立体オブジェなど、非日常的で少々高級感や刺激を感じる空間を設けました。

ソフト面では、入浴方法は当グループの一貫した考え方として機械浴は使わず、木曽ヒノキ製の三方介護個浴を用い、介護者と共に入浴する温かみがある方法を継承して行っております。今のところ、機械浴を使用したことは御座いません。

また、山王台病院の歯科・口腔外科及び言語聴覚士より構成されるチームの指導のもと、週1回の口腔ケアや嚥下・咀嚼リハビリを行っております。これによって、肺炎の予防へと繋がり、咀嚼の面では栄養科と協力して、ある程度歯応えのあり、且つ食べやすい食材を活かしたメニューにすることによって食欲増進が図られているものと思われます。

更に、嘱託医である山王台病院副



院長の上道治医師のきめ細かな指導のもと、病気の早期発見と健康管理に努めております。一方では、当施設の倫理委員会と御家族様との話し合いにより、ホームで安らかな最後を迎える看取りを積極的に行っており、5年間で20人に至っております。また、山王台病院と共同の感染対策チームを作り、厳しい環境整備や、感染症流行時の速やかな面会制限などを行うことにより、感染の蔓延を防ぎ、5年間でインフルエンザ患者様は1名のみに抑えることができました。

しかし、介護保険制度への負担は年々増しており、保険給付の低下により運営面では、非常に厳しい状況にあるのが現状であります。また、雇用の面でもゴールドプランとして持て囃された時代は終わり、若い世代の福祉離れにより人員確保に難渋しております。今後、色々な意味で多難な時代ではありますが、人が生まれその生涯を豊かに全うすることが、全てのものに優先されるものであり、前例のない未来に向かって行政や関係各位の皆様と協力し体制を強化して参りたいと思います。



山王台メディカルタウン

